

「DX（デジタルトランスフォーメーション）」と「グリーン」「官民共創」で築くポストコロナ時代の地方都市 「近江日野商人」ふるさとプロジェクト

かつて近江日野商人は北関東周辺等で事業を成功させ、その財で日野町に高い文化をもたらした。そして、ただ儲けるのではなく、「陰徳善事」など「社会全体がよくなること（社会貢献）」を目指した。その伝統を現代に活かす「デジタル時代の近江日野商人のまち」を目指す。

日野町は 第2次産業が発展し、昼間人口は流入超過という状況にありながらその「強み」が活かされず、外部から働きに来ている人は日野町内を訪れず、一方で旧来の町民は減少が続き、市街地は空き家・空き店舗が目立ち、公共交通はギリ貧状態、行き交う人もまばらな状況にある。コロナ禍で「集中」という大都市の価値が損なわれるなか、これを逆に「契機」ととらえ、日野町が持つポテンシャルや伝統を活かして、「DX」と「グリーン」の視点からまちなかを活性化させるため、モノづくり、ヒトづくり、コトづくりをすすめる。

「わたむき自動車プロジェクト」推進事業
公共交通による持続可能な地域経済活性化

Agop等事業者との官民共創により、エビデンスに基づいて持続可能な公共交通体系を整備し、マイカー利用せず町内を巡ることが出来るまちを実現し、CO₂削減と交流人口増加、ターミナルでの消費拡大やまちなか周遊による地域経済活性化を推進する。

「日野町版DX」で築く地域経済活性化と
関係人口拡大 =近江日野商人の伝統を活かす=

最新のデジタル技術導入を「日野町にあう形」ですすめ、地域に根ざしたDXを推進するとともに、その成果を活かしながら、次世代の日野町を担うデジタル人材の養成を目指す。

「ちょっと工夫でエコロジーなまちづくり」
推進プロジェクト

「ちょっとした工夫」「ほんのひと手間」で、社会貢献と事業拡大を両立させる取り組みを推進する。

【おおまかな進め方】

1年目
各事業における推進基盤固め
(官民共創システム構築)



2年目
官民共創による事業推進
(トライアンドエラー)



3年目
「自立」にむけた推進体制構築

交流人口増加（地域経済循環促進）とCO₂削減の両立